

## 地域支援事業の推進事例

## 千葉県大網白里市・住民互助による「介護予防・日常生活支援事業(訪問型 B)」の創出

2015 年 10 月～2016 年 6 月

### 住民互助による生活支援プログラム(マリンゴールド事業)の準備と研修を行う。

大網白里市においては、いち早く 2014 年初秋から住民互助による生活支援プログラムの提案を行い庁内関係職員・社協職員らの勉強会を開始し、講師に厚生労働省老健局振興課の担当者を招き、説明を受けるといった諸準備を行ってきた。

住民互助による「介護予防・日常生活支援(訪問型 B)」を、大網白里市のマスコットキャラクター「マリンちゃん」をネーミングに取り入れ「マリンゴールド事業」とした。

2015 年 4 月からは市内において、マリンゴールド事業の住民説明会を、自治会連合会総会、民生・児童委員連絡協議会総会、介護保険事業連絡協議会総会、地域福祉活動計画策定委員会、地区社協連絡協議会地区部会等を通して繰り返し行った。

2015 年 9 月よりマリンゴールド事業の「生活サポーター(支援を必要とする高齢者の住まいを訪ねて掃除・洗濯・買い物等の日常生活支援を行う)」を住民から募り、研修を開始した(2016 年 5 月末までに研修修了者は 16 名、現在、受講者数が増大)。

大網白里市高齢福祉課では、大網白里市介護予防・日常生活支援総合事業補助金交付要綱を作成して発表した。また事業の運営を担当する大網白里市社会福祉協議会では、介護予防・日常生活支援総合事業訪問型サービス B 実施要綱を作成して発表した(ともに 2016 年 6 月付)。

2016 年 6 月より生活サポーターの支援を必要とする人の募集を行い、マリンゴールド事業を実施していくことになった。

2016 年 6 月～2017 年 3 月

### マリンゴールド事業(大網白里市日常生活支援総合事業;訪問 B 型)の開始・実施運営および事業評価を行う。

2016 年 6 月～2017 年 3 月

### マリンゴールド事業(大網白里市日常生活支援総合事業;訪問 B 型)の継続実施を行い、定着・拡大発展の途上にある。

事業企画・実施責任者：石田 路子(城西国際大学福祉総合学部副学部長・高齢社会をよくする女性の会理事)

本事業の企画・調査研究等は三菱財団より助成金の交付を受けています。

【千葉県大網白里市】

# 地域のもつ力をより活性化して マリンゴールド事業が発進



生活サポーター養成の研修は全5回。1・2回は事業理念やシステム概要、活動内容や取り組み姿勢などの講義、写真は第3回で演習形式での事例検討。第4回では利用者の自宅を訪ねる現場実習を行い、第5回で修了証を渡す

## 住民相互の助け合いを

千葉県の中央部、千葉市に隣接し、九十九里浜で太平洋に面する、東西に長い大網白里市。人口は男女比ほぼ半々の約5万人。世帯数2万1000ほどで、高齢化率は約26.7%。千葉市や首都圏に通勤する人も多い大網地区と、漁業が盛んな白里地区を抱える。また、交通アクセスの向上により急激に増加した新住民と、従来からの住民との意見調整も、課題の一つという。

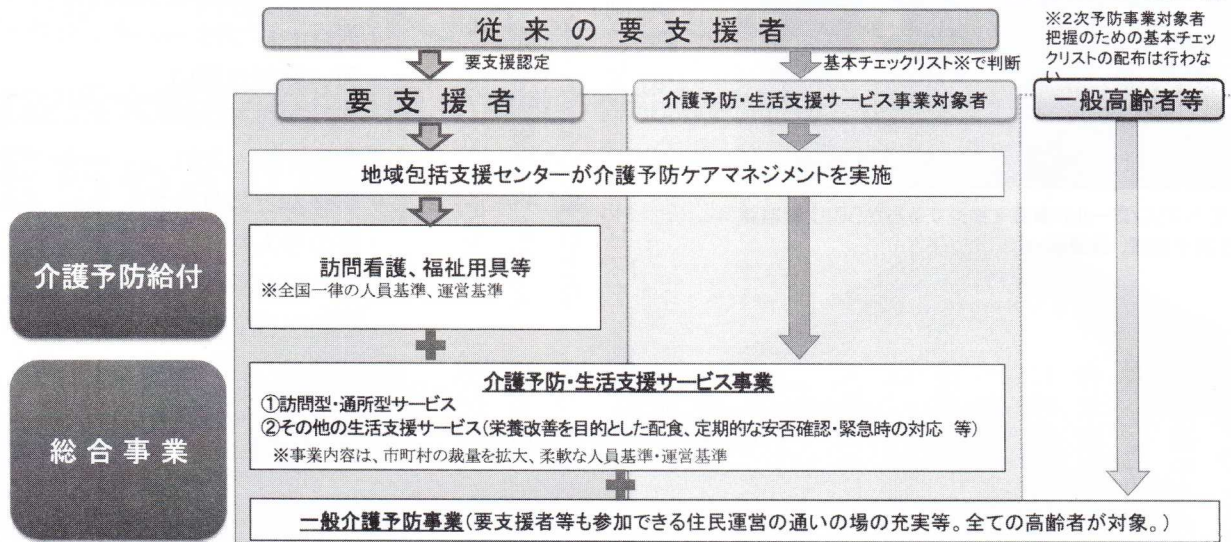
そんな市で、「生きがいづくりと自立支援のための事業を地域でつくりだそう」という試みが始まった。名付けて「マリンゴールド事業」。市のシンボルマーク「マリン」ちゃんにちなんだ名前で、2015年度から3年計画で行われる。

仕掛けたのは市内に住み、隣接する東金市にある城西国際大学福祉総合学部の教授・石田路子さん。樋口恵子さんが理事長である「高齢社会をよくする市民の会」の運営委員も務める。

「8年前からこの市に住んで、地域福祉活動計画策定などにかかわってきました。住民自身が、助け合って地域を守っていこうとする意識を比較的強く持っているところだと思います。そんなとき、地域包括ケアシステム構築の話があり、ここにはいち早くつくりあげられる土壌があると感じました」

## 総合事業の概要

- 訪問介護・通所介護以外のサービス(訪問看護、福祉用具等)は、引き続き介護予防給付によるサービス提供を継続。
  - 地域包括支援センターによる介護予防ケアマネジメントに基づき、総合事業(介護予防・生活支援サービス事業及び一般介護予防事業)のサービスと介護予防給付のサービス(要支援者のみ)を組み合わせる。
  - 介護予防・生活支援サービス事業によるサービスのみ利用する場合は、要介護認定等を省略して「介護予防・生活支援サービス事業対象者」とし、迅速なサービス利用を可能に(基本チェックリストで判断)。
- ※ 第2号被保険者は、基本チェックリストではなく、要介護認定等申請を行う。



提供：厚生労働省

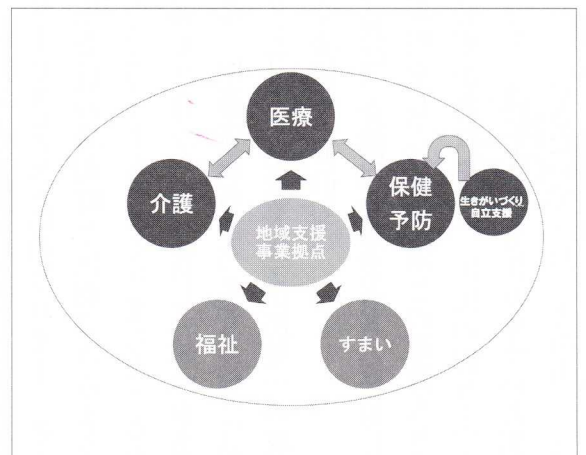
そこで市に対して働きかけをし、具体策を話し合った。

いま、厚労省は地域包括ケアシステムを25年までに推進することを市町村に求めており、なかでも「新しい総合事業」(図を参照)はこの3年間の開始が義務付けられている。しかし、具体的にどう進めるのか、全国の市町村が頭を悩ませているところだ。

地域包括ケアシステム構築を担当するのは市の高齢支援課。課長の町山繁雄さんは

「石田先生からお話があるって、市として「新しい総合事業」にぴったりだと思いました。実は、昔は普通だった「互助」という仕組みは、いまは住民のなかにあまり見られない。もう一度つくりなおさなければ成立しない状況です。そんななか、マリンゴールド事業では、住

### ●大網白里市地域包括ケアシステム



厚生労働省の示す地域包括ケアシステムの概念にしたがって、市として「子どもから高齢者まで、みんなが主役」になれるまちづくりを目指す

民主主体で、自ら住みやすい地域をつくるために働いていただけるということで、市の事業として推進することにしたのです」と経緯を語る。

大枠は、市内5つの中学校区ごとに地域支援事業拠点をつくり、その拠点を中心とした、住まいと福祉の安定を基盤に、介護・医療・保健予防(生きがいつくり・自立支援)を有機的に連携し、市民の暮らしを支えるというもの。今回のマリンゴールド事業では、その生きがいつくり・自立支援の部分を、住民参加で担おうとしている。

### まず民生委員の信頼性を軸に

具体的には、介護保険の給付から外れる要支援の人への通所と生活援助のうち、生活援助部分を、生活サポーターという登録したサ



大網白里市マリンゴールド事業を推進する右から町山繁雄課長、石田路子教授、保健師・小田川尚子さん

サービス提供者が担うというもの(図表を参照)。「事業を利用する方は、介護保険で現在要支援の方と、新たにチェックリストで対象者となる方で、いずれも登録制とします。サービスを提供していただく側は、身元や人物などに不

●生きがいづくり・自立支援事業の仕組み

生活サポーターが提供するサービス

- ・買い物代行
- ・掃除、片づけ
- ・洗濯、洗濯物取り入れ
- ・調理、片づけ
- ・買い物付き添い
- ・通院付き添い
- ・布団干し、入れ
- ・電球など取り換え
- ・庭の手入れ
- ・電化製品修理
- ・ゴミ出し(分別)
- ・その他

提供の仕組み(金額は予定)

- A** サービス利用希望→チェックリスト→OKなら登録  
利用料 200円/1時間
- B** 市の高齢者支援課(地域支援事業)  
利用料補助 800円/1時間
- C** サービス提供希望(推薦人が必要)→研修→生活サポーターとして登録  
サービス提供ごとに対価(検討中)を受け取る
- D** 事業(企画・運営)コーディネーター  
AとCを調整

安があつては困りますので、現状ではまず、民生委員(児童委員)さんのなかから希望者を募って開始し、今後徐々に、推薦制で増やしていく予定です」と語るの、この事業推進の実行部隊を担う市の地域包括ケアセンター保健師の小田川尚子さん。

サービスを利用する人が支払う額とサービス提供者に支払われる額の差額に当たる部分は、介護保険の〈新しい総合事業〉の地域支援事業費を財源として利用するという。

そこでまず、希望者を募るため、民生委員に呼びかけて14年秋から勉強会を開始した。今年度は、基盤整備の時期と位置づけ、関係者への説明やサービス利用者、提供者双方の登録推進やそのデータの整理、双方のニーズマッチングのシステム開発などに取りかかっている。また、それぞれの研修や実施計画作成・トラ

イアルを推進し、いよいよ、10月からは生活サポート事業の一部実習も始まった。

「ご自宅に入るサービスですから、ご近所の顔見知りでも、あいまいなボランティアではなく、きちんとした事業としての整備が大切。それでこそ、守秘義務も含めて公的な色合いのあるサービスとして信頼されます。そのために、民生委員の訪問時と区別できるように、ピンクのユニフォームもつくりました」と石田さん。

16年2月からは、〈新しい総合事業〉を開始する。厚労省から担当者も視察に訪れ、このマリンゴールド事業の「住民発」の取り組みを高く評価したという。

「今後は、介護保険事業所さんに対しても丁寧な説明をし、介護保険との連動もさらに考える必要があります。住民の皆さんとともに、考えて、誰にとっても住みやすい大網白里市をつくっていききたいですね」と町山さんは結んだ。